

僕
は
夢
追
い
人
か
も
し
れ
な
い
こ
の
夢
を
追
え
ば
で
も
世
界
そ
は
1
つ
に
結
ば
れ
る
よ
い
つ
か
君
も

Portrait © 1980 Lennon

I M A G I N E

John Lennon

『イマジン』 ジョン・レノン

監督・制作・脚本：アンドリュー・ソルト / 制作：デイヴィッド・L・ウォルバー / 制作・脚本：サム・イーガン / 音楽編集：ジョージ・マーティン
出演：ジョン・レノン オノ・ヨーコ シンシア・レノン ショーン・レノン ジュリアン・レノン ボール・マッカートニー ジョージ・ハリスン リンゴ・スター

WARNER BROS.
A TIME WARNER ENTERTAINMENT COMPANY
©1988 Warner Bros. All Rights Reserved

1988年/アメリカ/カラー/35ミリ/106分 Distributed by CABLE HOGUE co., Ltd.

もう一度、『イマジン』

和久井光司 (音楽家/詩人)

ジョン・レノンが非業の死を遂げてから、今年で20年になる。その年、つまり1980年に生まれた子供が成人となってしまったわけだから、普通の時間軸で考える20年という年月はかなり長い。じゃあ、その長い間にジョン・レノンはすっかり“過去の人”になってしまったかということ、そうではない。むしろ逆だ。ビートルズと彼の音楽を愛するファンは、ジョンの新作を望めないことで彼の“不在”を痛感してきたはずだが、しかし全人類的には、彼が亡くなってからの方が、ジョン・レノンという存在を身近に感じる機会が多くなっているのではないだろうか。

死をもって“歴史上の人になった”ということ、社会的には下世話なネタとして語られるのを免れない“ロック・スターという地位から解放された”ということが、60年代に興隆を極めた20世紀のエポック的な若者文化の中心にいた“ジョン・レノンの功績”をクローズアップさせるきっかけになったのは確かだが、70年代初頭から彼の音楽や行動をリアルタイムで体験していたぼくの目には、時にはそんな死後の評価が奇異なものに映るのだ。

たとえば“思想家ジョン・レノン”とか、“平和運動家ジョン・レノン”といった類いの語り口である。「それは違う…」と、ぼくは思う。確かにジョンがオーディエンスに向けて放った言葉、詩には、ひとつの思想とも取れる彼のメッセージがあふれていた。実際にベトナム戦争やアメリカにおける社会的な差別に、具体的な行動をもって抗議したこともあった。しかし彼は、主義・主張を大書した旗を掲げて大衆を扇動したわけではないし、ある集団のリーダーだったわけでもない。

ジョンは単に“想い”を歌にただけなのだ。わがままで、勝手に、子供のように純粋で、ゆえに時には残酷な、個人としての“想い”を語っただけなのである。それは主義・主張に裏打ちされた、思想と呼ぶべきものとは明らかに異なるものだ。肉体を持たなくなつてからのまつりあげられ様を天から眺めるジョンは、きつこう言うに違いない。「思想? 何たそりゃ!」「世界平和? 知ったことか!」

I M A G I N E

John Lennon

映画『イマジン』は1988年に初公開された、ジョン・レノンの生涯を記録したドキュメンタリーである。テレビや映画、ニュース・フィルム、プライベート・ムービーなどに残る“動くジョン・レノン”と、関係者へのインタビューで、40年と2か月の生涯を立体的に浮かび上がらせた、伝記映画史上に残る傑作だ。秀逸なのは、すべてのナレーションがジョン自身の発言を紡いで完成されているところで、その淡々とした語り口が作品全体のリズムを決定している。

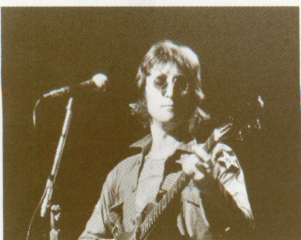
もちろんぼくは初公開時に劇場で観た。そして、泣いた。それからビデオでも観た。また、泣いた。何度も何度も観た。何度も何度も泣いた。この原稿を書いている今も、映画のシーンを思い出してしまって、もう涙でワード・プロセッサの液晶画面が見えなくなりかけている。

「ジョンはすごいなあ」と歌や演奏に感動させられるわけではない。「殺されちゃうなんて…」と感傷にひたせられるわけでもない。音楽の才能があった田舎の兄ちゃんの栄光と挫折が静かに語られるだけなのだ。でも、だからこそ、ぼくにもきみにも重なる“人間のドラマ”にぼくらは入れこんでしまう。

アスコットの邸宅にまぎれこんでジョンに教えを乞うヒッピーは、ぼくであり、きみであるのだ。あの時、もしジョンが彼の思想や芸術論で迷える子羊を論破したら、彼はきっと幸せな老後を送り、伝記映画はまったく違ったものになっただろう。しかしジョンは、不幸なことに、そういう人ではなかった。なぜなら彼は“人として生きる苦しみ”をあまりにも深く知っていたからである。

“Are you hungry?”

それはいみじくも、永遠に迷える子羊であるすべての人間に向けて放たれた、ジョン唯一の根源的メッセージとして記録されたのだった。



監督・制作・脚本:アンドリュー・ソルト 制作:デイヴィッド・L・ウォルパー 制作・脚本:サム・イーガン 音楽編集:ジョージ・マーティン
出演:ジョン・レノン、オノ・ヨーコ、シンシア・レノン、ジュリアン・レノン、ショーン・レノン、ポール・マッカートニー他
1988年/アメリカ映画/カラー/106分/35mmピスタサイズ Distributed by CABLE HOGUE CO.,LTD. <http://www.cablehogue.co.jp/>

ジョン・レノン、40年と2ヶ月の軌跡

1月20日(土) ~ 2月2日(金)

レイトショー (pm 8:15から1回上映)

特別前売鑑賞券 1400円にて好評発売中!! (当日一般 1700円の処)

HERE!!
ホワイティ橋田泉の広場M-10右とがる乗へ5分
扇町ミュージアムスクエア
☎06-6361-0088 www.oms.gr.jp